

WORLD RV REPORT

ワールドRVレポート

キャンピングカーは 世界人類の財産

キャンピングカーは人類の財産。キャンピングカーが地球を救う。
今、キャンピングカーが未来に明かりを灯そうとしている。

政治、経済、地球環境など、さまざまな領域で激動期を迎えた21世紀。人々の暮らしを支えてきた今までの価値観が揺らぎ、新しい文化を模索しようという動きが加速する中で、昨年秋、世界のキャンピングカー団体とメーカーが一堂に会して「世界会議」を開いた。北米、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、アフリカからキャンピングカー開発業務に関わる首脳陣が集まって、キャンピングカーが人類に幸せをもたらす可能性を模索し、その健全なる発展を願って意見交換会を行ったのだ。

その会議には日本RV協会（JRVA）が、日本のキャンピングカー業界を代表する形で出席。各国首脳陣との交流を深めながら、日本のキャンピングカー産業の現状を報告するとともにその車両開発の哲学を披露し、大いなる反響を巻き起こした。それと同時に、各国のキャンピングカー産業の現状と、それぞれの国でユーザーが享受しているキャンピングカーライフの貴重なレポートを入手することもできた。国が違えば、文化も風俗も異なる。キャンピングカーの世界も、国や地域によって開発思想も異なれば、使用環境にも差異があり、さらに発展段階にも差が開いている。しかし、キャンピングカーを愛し、情熱を持って育ててきた各国代表の思いはみな同じ方向を向いていた。

それは、「キャンピングカーは人類の財産」。そして、「キャンピングカーが地球を救う」。

人類の存亡まで視野に入れながら地球を語らねばならなくなった時代に、キャンピングカーが秘めている「家族や自然と調和しながら生きる」という哲学が、いかに強い力となるか。そのことが確認できた会議だった。

この号では、その「第1回RV世界会議」から拾った海外の最新RV事情をお届けする形で、キャンピングカーの魅力とその秘められた可能性をお伝える。



豊かな緑に囲まれた高級サイト
(オアシスRVパーク・アメリカ)



ヴェルツブルクキャンプ場の年間契約サイト。
借り主は鉢植えの花などを自分で用意して、
住みやすいように環境を整えている(ドイツ)
◎撮影:竹本孜(前オートキャンプ紙編集長)



フランスのアルザスで開かれた
FICC世界キャンプ大会
◎撮影:竹本孜(前オートキャンプ紙編集長)



美しく清潔なたたずまいを誇るザイオン国立公園のRVパーク
(アメリカ)

【RV世界会議】 1st Recreational Vehicle World Conference

2008年9月4日に、ドイツ・デュッセルドルフのキャンピングカーショー「キャラバンサロン2008」にて開催された会議。日本、アメリカ、ヨーロッパ、カナダ、オーストラリア、南アフリカ、中国の各国代表がそれぞれ自国のキャンピングカー産業の現状とその使用環境を報告しあい、将来の展望を語り合った。



世界と日本の キャンピングカー人口、 販売台数の比較

アメリカ／ヨーロッパ



▲左：カナディアンロックーを見上げるバンフ国立公園を見物に来たモーターホームユーザー(カナダ) ▶キャンプ場を基地にサイクリングを楽しむキャンパーたち(ドイツ・レヒブルック) ©撮影:竹本孜(前オートキャンプ紙編集長)

世界の国々がキャンピングカーに期待 欧米では国を支える大産業として定着

世界一のキャンピングカー王国 アメリカ

現在アメリカには820万台のRV(キャンピングカー)が走っている。この数はキャンピングカー先進国がひしめくヨーロッパ全土のキャンピングカーを合わせた数よりも多く、世界一の数を誇っている。

この820万台のうち、その75～80パーセントはトラベルトレーラーが占める。自走式キャンピングカーは残りの20～25パーセント。この比率を見ると、アメリカという国が、意外にも「トレーラー王国」であったことが分かる。

07年度の資料によると、その年のトラ

ベルトレーラーの販売台数は30万台。自走式キャンピングカー(モーターホーム)の販売台数は5万5,000台。合わせて、35万5,000台のRVがその1年で出荷されたことになる。この数は、日本の1年の出荷台数のほぼ75倍に当たる。

これらのアメリカ製キャンピングカーの82パーセントは国内で使用され、18パーセントが輸出に回っている。輸出先は同じ北米圏内のカナダが多いが、ヨーロッパや日本などにも輸出されている。

アメリカの820万台というRVの数は、日本のキャンピングカーの136倍に当たる。日本のキャンピングカーの総累計は6万台弱であるから、その差はあまりにも大きい。この

数の開きは、やはり日本とアメリカのキャンピングカーの歴史の長さが関係している。

自動車の誕生とほぼ同じ頃にキャンピングカーが生まれていたアメリカでは、何世代にわたって、国民がキャンピングカーを使うレジャーを楽しんできた。そのため、キャンピングカーを使って宿泊する施設も早くから整ってきた。キャンピングカーが普及している国というのは、やはりその歴史の長さが違うのだ。

統合が進むヨーロッパメーカー

ヨーロッパにはイギリス、ドイツ、フランス、

イタリアなど、「キャンピングカー先進国」といわれる国々がひしめいている。それぞれの国に歴史と伝統を誇る有名メーカーがそろっているが、最近はEU(欧州連合)として歩調を合わせようとする傾向が強く、メーカー同士の国を超えた合併・吸収も進み、パーツの共有化も進んできた。そのため、ヨーロッパのキャンピングカーを語る場合は、ヨーロッパ全体を眺めながら語った方が分かりやすくなってきた。

まず、ヨーロッパ全土のキャンピングカーの総数はどのくらいかという、トラベルトレーラーが410万台。自走式キャンピングカーは130万台。合わせて540万台のキャンピングカーが全ヨーロッパを走っているこ

とになる。この数は、1998年当時と比べて5パーセントの成長率だといわれている。

また、2007年度だけの登録台数だけを見ても、トレーラーが116,900台。自走式キャンピングカーが89,100台となり、トレーラーの方の普及率が高いことを示している。ちなみにイギリス、ドイツ、オランダ、フランスの4ヶ国では、トレーラーの登録台数が全体のほぼ70パーセントを占めた。

しかし、過去10年の推移を見てみると、順調に伸びてきたトラベルトレーラーの登録は、07年度はマイナス2.3パーセントとやや陰りを見せてきた。それに対して、自走式キャンピングカーの登録は44パーセント以上の増加を示した。

将来のヨーロッパ市場においては、自走式キャンピングカーの登録台数の方がトレーラーを上回ると予測する声もある。

ちなみに、キャンピングカー産業のヨーロッパ全域における年間取引高は、2007年には約124億ユーロに達したといわれている。

また、同年のキャンピングカーに関連した観光旅行の取引高は、約153億ユーロに及んだ。キャンピングカー産業とキャンピングカーに関連するビジネス業の取引高の合計は277億ユーロといわれ、この業界がEU圏において果たす役割の大きさを物語っている。

太古の昔からそびえ立つ奇岩を見上げながらのキャンプ(モニュメントバレーRVパーク・アメリカ)